

子どもたちが楽しく通える魅力ある学校づくり
～生徒指導提要の改訂をふまえた生徒指導の充実を通して～

大崎町立菱田小学校 教諭 岩元 愛美

目 次

1	はじめに	1
2	研究主題	1
3	研究主題設定の理由	1
	(1) 現代の教育動向から	
	(2) 学級の子どもの実態から	
4	研究の仮説	1
5	研究の構想	2
6	研究の実際	2
	(1) 仮説 1 の検証「生徒指導の 4 つの視点を意識した学習者中心の授業づくり」	
	(2) 仮説 2 の検証「学校生活における発達支持的生徒指導の充実」	
7	研究の成果と課題	8
	(1) 研究の成果	
	(2) 今後の課題	
8	おわりに	9

〔引用・参考文献〕

<ul style="list-style-type: none"> ・『生徒指導提要』 ・『小学校学習指導要領解説【理科編】』 ・『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』 ・『生徒指導リーフ Leaf.2「絆づくりと居場所づくり」』 ・『生徒指導リーフ Leaf.18『「自尊感情」？それとも、『自己有用感』？』』 ・『生徒指導リーフ3S「発達障害と生徒指導～自尊感情への配慮～」』 ・『令和2年度版人権教育指導資料「仲間づくり～自尊感情を育むために～」』 ・『～子供の声を聴こう！これからの学校づくり～ 魅力だより No.1～No.5』 ・『「学習者主体の授業」の提案』 ・『令和5年度大隅学力向上リーフレット』 ・『子供たちのソーシャルスキルを把握できる「ソーシャルスキルシート」』 ・『生徒指導提要(改訂版)全文と解説』 	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">文部科学省</td> <td style="width: 40%;">令和 4 年</td> </tr> <tr> <td>文部科学省</td> <td>平成 29 年</td> </tr> <tr> <td>文部科学省</td> <td>令和 3 年</td> </tr> <tr> <td>国立教育政策研究所</td> <td>平成 27 年</td> </tr> <tr> <td>国立教育政策研究所</td> <td>平成 27 年</td> </tr> <tr> <td>国立教育政策研究所</td> <td>令和 2 年</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県教育委員会</td> <td>令和 2 年</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県教育委員会</td> <td>令和 5 年</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県教育委員会</td> <td>令和 5 年</td> </tr> <tr> <td>大隅教育事務所</td> <td>令和 5 年</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県総合教育センター</td> <td>平成 31 年</td> </tr> <tr> <td>学事出版</td> <td>令和 5 年</td> </tr> </table>	文部科学省	令和 4 年	文部科学省	平成 29 年	文部科学省	令和 3 年	国立教育政策研究所	平成 27 年	国立教育政策研究所	平成 27 年	国立教育政策研究所	令和 2 年	鹿児島県教育委員会	令和 2 年	鹿児島県教育委員会	令和 5 年	鹿児島県教育委員会	令和 5 年	大隅教育事務所	令和 5 年	鹿児島県総合教育センター	平成 31 年	学事出版	令和 5 年
文部科学省	令和 4 年																								
文部科学省	平成 29 年																								
文部科学省	令和 3 年																								
国立教育政策研究所	平成 27 年																								
国立教育政策研究所	平成 27 年																								
国立教育政策研究所	令和 2 年																								
鹿児島県教育委員会	令和 2 年																								
鹿児島県教育委員会	令和 5 年																								
鹿児島県教育委員会	令和 5 年																								
大隅教育事務所	令和 5 年																								
鹿児島県総合教育センター	平成 31 年																								
学事出版	令和 5 年																								

1 はじめに

今年度、本校で初めて生徒指導主任を任せていただいた。生徒指導提要が12年ぶりに改訂され、今年度は生徒指導の概念や取組方の方向性等を再構築する上で大切な1年になると考えた。6年担任としても、生徒指導主任としても、子どもたちが楽しく通える魅力ある学校づくりに取り組みたいと強く思った。



～終業式での生活クイズ～

2 研究主題

子どもたちが楽しく通える魅力ある学校づくり
～生徒指導提要の改訂をふまえた生徒指導の充実を通して～

3 研究主題設定の理由

(1) 現代の教育動向から

生徒指導提要が改訂され、特に「発達支持的生徒指導」の重要性が強調された。生徒指導提要には「発達支持的生徒指導は、特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるもの。児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことが尊重され、教職員は児童生徒の『個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える』ように働きかける。」(生徒指導提要 令和4年12月 P.20)と示されている。

そこで、今後の教育活動の中心となる発達支持的生徒指導の視点を大切にすることで、子どもたちが楽しく通える魅力ある学校づくりを実現できるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

(2) 学級の子どもの実態から

本学級の4年時・5年時の学校楽しいとの結果は右の表のとおりである。どの観点においても学校全体の平均値を下回った。小学校生活最後の1年、子どもの主体性を尊重した生徒指導の充実を通して、子どもたち一人一人が「自分という存在が大事にされている」、「心の居場所になっている」、「学校が自分にとって大切な意味のある場になっている」と実感することができる学級・学校づくりを大事にしたいと考えた。

観点	4年	5年
友達との関係	11.8	11.92
教師との関係	10.33	9.83
学習意欲	11.53	11.67
自己肯定感	10.2	10.92
心身の状態	8.8	7.92
学級集団への適応感	11.2	10.92

【表1 2年間の結果(4・5年時)】

4 研究の仮説

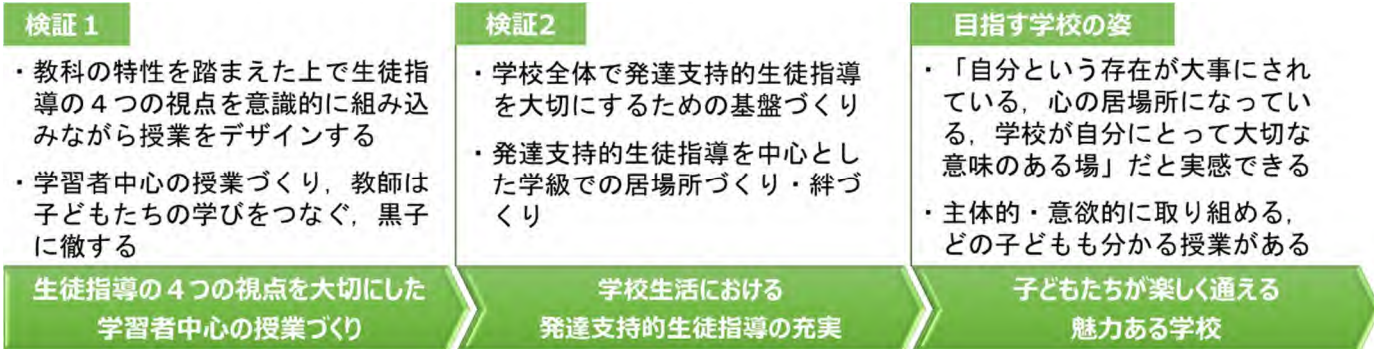
仮説1

生徒指導の4つの視点を意識した学習者中心の授業によって、「全ての子どもが主体的・意欲的に取り組める、全ての子どもにとって分かる授業」を実現できるのではないかと考えた。

仮説2

学校生活において発達支持的生徒指導を充実させることによって、「子どもが学校とのつながりを感じ、学校が子どもにとって魅力ある学校」になるのではないだろうか。

5 研究の構想



6 研究の実際

(1) 仮説1の検証「生徒指導の4つの視点を意識した学習者中心の授業づくり」

ア 教科の指導と生徒指導「第6学年 理科 土地のつくりと変化」における実践

生徒指導の4つの視点を意識しながら学習者中心の授業づくりに取り組んだ。第6学年の理科「土地のつくりと変化」において、第7時と第8時に検証授業を行った。

1 ゲーム形式で前時の確認問題を解く。



れき・砂・泥の中で、大きさが一番大きいものはどれか。






【写真1 喜ぶ姿】 【図1 タブレットでの確認問題】 【図2 正答率画面】 【写真2 実態に応じた補足説明】

自己存在感の感受	ゲーム開始前に子どもたちが参加人数を確認し、一人一人の存在を大事にする。
共感的な人間関係	一人一人が嬉しさや悔しさを素直に表現できる、受容できる雰囲気大切に。
自己決定の場	正答率のみか、解答時間と正答率の両方にこだわるか、個人で選択して取り組む。
安全・安心な居場所	教師が一問ごとに児童の正答率を確認し、正答率に応じて補足説明に軽重をつける。

2 前時の学習を振り返り、予想を立てる。






【写真3 一人で考える】 【写真4 友達と考える】 【写真5 学びを支える】 【写真6 黒板上での意思表示】

自己存在感の感受	ネームプレートを貼り、最終的に考えた予想を示し、所属感や自己有用感を高める。
共感的な人間関係	考えを自由に共有する中で互いに認め合ったり、支え合ったりすることができる。
自己決定の場	一人で考え続けるか、自由に移動し友達と考えるか選択し、最終的な予想を立てる。
安全・安心な居場所	選択した学習方法を尊重しながら、必要に応じて子どもに寄り添い学びを支える。

3 学習問題をつかみ、本時の流れや器具の使い方を確認し、解決の見通しをもつ。






【写真7 めあて記入】 【写真8 本時の流れボード】 【写真9 使い方の確認】 【写真10 役割分担】

共感的な人間関係	グループの仲間と実験の手順を確認し、仲間とともに解決の見通しをもつ。
自己決定の場	子どもたち自身が実験に必要な役割を考え、協力しながら役割分担を決める。
安全・安心な居場所	本時の流れボードで学習の流れを確認することで、見通しをもつことができる。

4 グループに分かれて実験を行い、実験結果をまとめる。

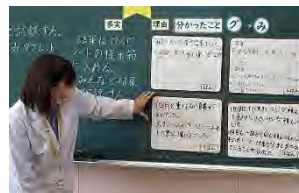
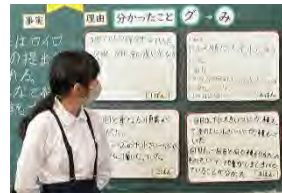


【写真11 グループ実験】 【写真12 紙面に結果を記録】 【写真13・写真14 タブレットで結果を記録】

自己存在感の感受 自分の役割を意識して実験に取り組むことで、一人一人の大切さを実感できる。

自己決定の場 結果をワークシートに記入するか、タブレットで記録するかそれぞれが選択する。

5 結果から分かったこと(考察)をまとめ、考察したことを基に本時のまとめをする。



【写真15 グループで考察】 【写真16 考察の記入】 【写真17 考察の発表】 【写真18 学びをつなぐ】

自己存在感の感受 授業後の見届けにおいて、一人一人が書いた考察を教師が褒めたり、認めたりする。

共感的な人間関係 友達と話し合いながら、自分の考えを整理したり、みんなで考えをまとめたりする。

自己決定の場 文章だけで考察をまとめるか、図と文章を用いて考察をするか自分で選択する。

安全・安心な居場所 子どもたちが発表したことを教師がつなぎ合わせ、みんなで考察をまとめる。

6 視点を選び学習を振り返る。学習したことを生かして、本時のチャレンジ問題に取り組む。



【写真19・写真20 自分で選んだ方法で振り返り】 【写真21 検証実験】 【写真22 常設振り返りコーナー】

自己存在感の感受 授業の終末や授業後に、子どもの振り返りを見届け、一人一人の頑張りを認める。

共感的な人間関係 友達と検証実験に取り組むことで、チャレンジ問題への理解を深められる。

自己決定の場 振り返りの視点を選び、ワークシートかタブレットを使って振り返りをする。

安全・安心な居場所 常設の振り返りコーナーで、学びを想起したり、次時の見通しをもったりできる。

(2) 仮説2の検証「学校生活における発達支持的生徒指導の充実」

ア 生徒指導主任として学校全体で発達支持的生徒指導を大切にするための基盤づくり

生徒指導主任として、学校全体、全職員で発達支持的生徒指導を大切にするための基盤づくりをするために、次のようなことに取り組んだ。

(7) 生徒指導連絡会

週1回、放課後に生徒指導連絡会を実施している。進行と記録は生徒指導主任が担当する。

① 各学級担任から報告・連絡 → ② 担任以外の職員から報告・連絡 →

③ ①と②の内容によっては全体で話し合う → ④ 管理職から連絡 →

⑤ 生徒指導主任から連絡(③で決めた手立てや支援・共通実践事項・生徒指導だより等)

毎週、連絡会を丁寧に行うことで、全職員でよりよい児童理解ができたり、意識を揃えて共通実践事項に取り組んだりすることができるようになった。また、この会で報告されたことは生徒指導主任が記録にまとめ、教頭、校長に報告し、いつでも組織対応できる体制を整えた。記録を次の指導に生かすこともでき、蓄積することの大切さを感じた。

(イ) 生徒指導だより

生徒指導だよりでは、毎月の生活目標と共通実践事項を確認できるようにした(写真23)。共通実践事項に取り組む際に大切にしているポイントを記載することで、全職員の意識を揃えることができた。

また、必ず生徒指導提要の内容を扱うことを心掛け、学校の現状を踏まえながら、各月で提供した方がよい情報を精選して伝えた。学校全体や6年生の学級で取り組んだことを、生徒指導提要に沿って紹介することもあった。事例を掲載したことで、「分かりやすい」、「そんな意図があったんだ」と温かい言葉をいただくこともできた。さらに、事例を挙げることで、自分自身の取組を生徒指導提要に沿って再度見つめ直すことができ、自分の指導法改善にもつながったことがよかった。

12月の生活目標「気持ちよく、進んで仕事をしよう」について
2学期も残り2週間となりました。12月の実践事項は次の2つです。

- 進んで、委員会や係の仕事をしよう。
- ◎ すみずみまで、ていねいに掃除をしよう。←全職員で温かい声掛けをお願いします。

B校時が多く、掃除をできる日が少ないですが、子どもたちができたことを一つ一つ褒めながら、学校全体で進んで掃除に取り組める雰囲気づくりを大切にできたらと思います。

「生徒指導提要」～特別活動と生徒指導～
今年度、6年生の子どもたちと特別活動に取り組む中で、生徒指導提要に書かれている「可能な限り児童生徒の自主性を尊重し、創意を生かし、目標達成の喜びを味わえるようにすること。」「児童生徒による自発的、自立的な活動を重んじ、成就感や自信の獲得につながるような間接的な援助に努めること。」を意識することの大切さを何度も感じました。裏面に、生徒指導提要の「特別活動と生徒指導」を掲載しています。まだまだ課題も多い6年生ですが、特別活動を通して自分の成長や仲間との成長を感じることができた場面も多々ありました。2学期の日記の中から、特別活動に関するものを3つ紹介します。

学活で2学期の係を決めました。最初に自分が学級に必要なと思う係をロイロノートに書きました。そのあと、グループの友達と学級に必要な係を相談して、ホワイトボードに書きました。自分が思いつかない係を書いている友達がいるいろいろなことを考えていて、すごいなあと思いました。最後に全員で意見をまとめて、全部で5つの係が決まりました。自分たちで決めた係を、みんなががんばりたいです。

代表保健委員会に行きました。全学年の意見を見て、Yくんといっしょに話し合いながら、できるだけみんなの意見を入れるようにしました。そしたら、今月の具体策ははくどとYくんが考えた意見になりました。終わるときに、みんなの前でK先生がほめてくれました。1学期の代表保健委員会のときは、ふざけておられたので、ほめられてびっくりしました。とても、うれしかったです。

今日は、6年生のすてきなところを見つけるのが楽しかったです。私たちが「一人一人のいいところを書いてプレゼントしたい。」と言っていたことをできて、わくわくしました。いいところを書いているときは、シーンとしていてえん筆の音がすごく響いていました。みんなが一生きん命でした。友達から、カードをもらうのが楽しみです。またやりたいです。

【写真23 生徒指導だより】

(ウ) 校内研修

「生徒指導の実践上の4つの視点」と「生徒指導事例研修」の2本柱で研修を行った。「生徒指導の実践上の4つの視点」では、具体例として担任した学級での昨年度と今年度の取組を挙げ、活動を組み立てるときの視点やポイント、成果と課題について講義形式で説明をした(写真24)。

「生徒指導事例研修」では、本校で起こった事例について、グループ討議をした上で、全体での討議を行う演習形式で実施した。生徒指導連絡会で報告があった事例について考えたことで、現実的な問題として捉えることができ、意見交換も活発だった。

(例) 共感的な人間関係の育成・自己決定の場の提供
(6年生)
話し合い活動の中で自分たちに必要な係を決めた。係からのお知らせを帰りの会ではなく、ホワイトボード上に記入して連絡している。

(例) 自己決定の場の提供・安心安全な風土の醸成
(6年生)
2時間続きの2時間目の場面です。

【写真24 研修説明資料】

(イ) ICTを活用した全校共通教材

学校生活でのきまりや生活面で心掛けることと生活しやすくなること等について、クイズ形式で学ぶことができる全校共通の教材を作った(写真25)。パソコン、タブレットのどちらにおいても活用できるようにした

ひしだしよう
菱田小のくイズ
やくそくクイズ

答え⑦
か かいだん ある
ろう下や階段は、どこを歩く?
ひだりがわ なか みぎがわ
① 左側 ② 真ん中 ③ 右側

【写真25 ICTを活用したやくそくクイズ】

ことで、学級全体で指導を行う際には電子黒板上に提示し、個人で考えるときにはタブレットと使い分けをすることができた。また、そのときの学校全体の現状を考慮しながら、今の子どもたちにとって大切なこと、必要なことに焦点を当てながら新しい問題を作るようにした。

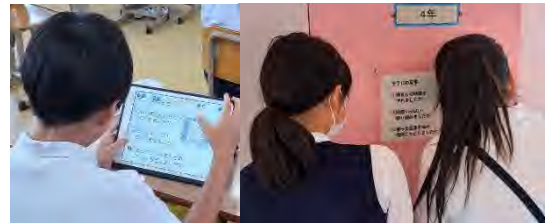
(オ) 子ども主体での生徒指導

毎月の児童代表委員会の中で、廊下歩行について考える機会があった。始めは「ポスターを掲示する」、「互いに声掛けをする」という方向に進みそうだったが、「本物の道路みたいに、真ん中に線を引いたら、1・2年生にとっても分かりやすい」という子どもの意見をきっかけに、校内の全ての廊下に黄色のテープを貼った(写真26)。ひまわり委員会(本校の総務委員会)が中心となり活動したことで、テープを貼る活動を行った子どもたちはもちろん、テープを貼る姿を見た多くの子どもたちも、廊下歩行、右側通行に対して前向きに取り組めるようになった。子どもが主体となって進めたことで、現在も教師が口頭で指導することはほとんどなく、よい状態を継続できている。

今年度、掃除時間のきまりにも大きな変化があり、町共通実践事項として取り組んでいた無言清掃がなくなり、各学校の実態に応じて教児同行作業が可能となった。職員会議で、「本校の掃除を教児同行作業に変更し、子どもたちと声を掛け合いながら前向きに掃除に取り組みたい」という意図を伝えると、全職員が教児同行作業に賛同してくださった。その後、6年生の子どもたちに掃除時間のきまりが変わったこと、掃除棚の掃除の反省カードを新しいものにしようと思っていることを伝えると、「タブレットだったら、すぐに作れますよ。」と言ってくれた。校内全ての掃除棚がある場所を書き出し、子どもたちが担当場所を決めて反省カードを作成し、掲示した(写真27・28)。また、下学年用のカードは全て平仮名表記、上学年用は漢字表記と、意見を出し合いながら、各担当場所によって工夫する姿も見られた(図3・4)。教児同行作業に取り組み半年が経過したが、子どもたちが意欲的に取り組めるようになったことはもちろん、以前までは無言清掃を指導する側であった教師が子どもたちと声を掛け合い、一緒に寄り添い、子どもの姿を褒めながら掃除ができるようになった。また、上学年の子どもたちが下学年の子どもたちに声を掛けたり、助け合ったりする姿が多く見られるようになった。



【写真26 廊下歩行を促すテープ】



【写真27 カード作り】【写真28 掲示】

そうじのはんせい	そうじの反省
①はじまりのじかんをまもれましたか。	①はじまりの時間をまもれましたか。
②じかんいっぱい、とりくめましたか。	②時間いっぱい、取り組みましたか。
③つかったどうぐをもとばしょにもどしましたか。	③使った道具を元の場所に戻しましたか。

【図3 下学年用】 【図4 上学年用】

(カ) 子どもと教師が支え合う生徒指導

終業式後に行う長期休みの過ごし方の話を、子どもたちと生徒指導主任で行った。1学期は、夏休みの生活のしおりの中から教師が問題を作り、当日の進行を6年生の子どもたちが行った(写真29)。初めての取組だったが、クイズに参加した1～5年生、先生方からも好評だった。6年生の子どもたちは、達成感を味わうことができ、次の活動に対しても意欲的だった。

2学期は、冬休みの生活のしおりの中から、子どもたちが問題を作り、1学期以上に子どもたちが主体となって活動するこ



【写真29 1学期クイズ】

とができた(写真30)。クイズの後は、生徒指導主任が6年生の子どもたちの頑張りを労った上で、命の大切さを中心に大事なことを伝え、話をまとめた。話を終えた後、当日の全体進行を務めた教務主任が全体の場で、6年生の子どもたちを褒めてくださったことで、子どもたちは満面の笑みだった。



【写真30 2学期クイズ】

イ 6年担任として発達支持的生徒指導を中心とした学級での居場所づくり・絆づくり

(7) 登校後に安心できる空間づくり

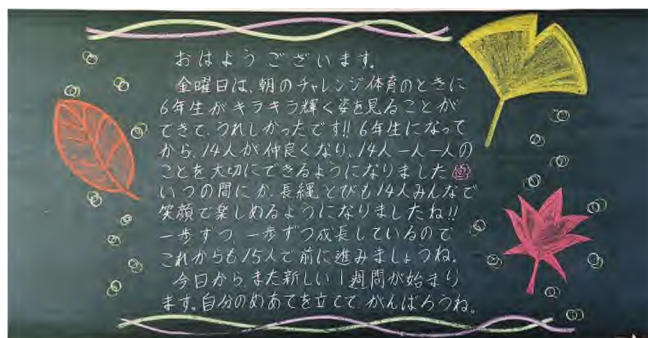
制作が好きな子どもたちが主体となり、掲示物のデザインや掲示する位置を提案し、学級目標、個人の年間目標、個人の学期目標を掲示した(写真31)。また、成長を振り返る場面では、個人目標の掲示物を確認しながら、じっくり自分を見つめる子どもも多く見られた。



【写真31 教室後方の目標掲示 ①学級目標 ②個人の年間目標 ③個人の学期目標】

(イ) 登校後に安心できる空間づくり

毎朝の黒板メッセージでは、前日に子どもたちが頑張っていたことや日々の成長を温かく褒め続けた。子どもたちが、黒板メッセージに対する返事を伝えてくれることも多く、子どもたちの優しい言葉のおかげで、担任も朝の時間を優しい気持ちで過ごすことができた。



【写真32 毎朝の黒板メッセージ】

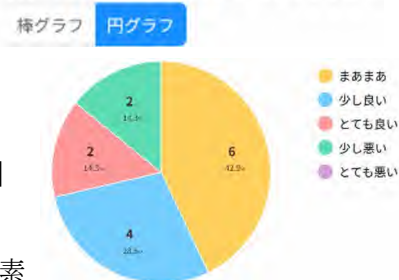
(ウ) ICTを活用した心身の状態の把握

朝の自分の状態をタブレットで入力し、「今朝の自分の気持ち」は選択式、「今日の自分のめあて」と「今、先生に伝えたいこと」は自由記述とした。子どもの状態を担任が把握することで、一人一人に寄り添う関わりを充実させることができた。また、記述欄に書かれた素直な思いが、早期対応や保護者との連携につながることもあった。



【写真33 朝の自分】

【1】今朝の自分は、どんな気持ちですか？



【図5 担任の確認画面】

(イ) 子どもが主体となる運動会

組分けの発表後、運動会の目標を話し合って決めた。「にじいろの運動会」を達成するために、7つの取組を行った。

練習がある日は、ペアで学級の練習のめあてを考え、練習前に全員で意識を高めた(写真34)。

練習後には、めあてに対する振り返りを行い、感じたことを自由に伝え合った(写真35)。

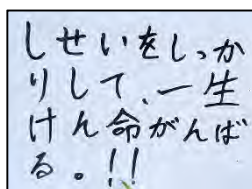
カウントダウンカレンダーを作りたいという声子どもたちから上がり、担任が記入用紙だけを準備し、日付の割り振りは子どもたちが行った(写真36)。

「にじいろの運動会」を達成するために、個人目標を決めて掲示した(写真37)。

「最後の運動会だから、保護者の方に感謝の気持ちを伝えたい」という思いを実現するために招待状を書いた(写真38)。

本番1週間前、応援メッセージを伝え合う活動をした。思い出を残したいという子どもたちの気持ちを尊重し、カードに書いて渡し合った(写真39)。

振り返りでは、「運動会練習でがんばったこと」、「運動会練習で成長した自分」の2つを記入した後、自由に移動して友達と振り返りのメッセージを書き合った(写真40)。また、保護者と担任もメッセージを書き、一人一人の成長を多くの人で認めることができた(写真41)。



【写真34 練習のめあて】



【写真35 練習後の振り返り】



【写真36 カウントダウンカレンダー】



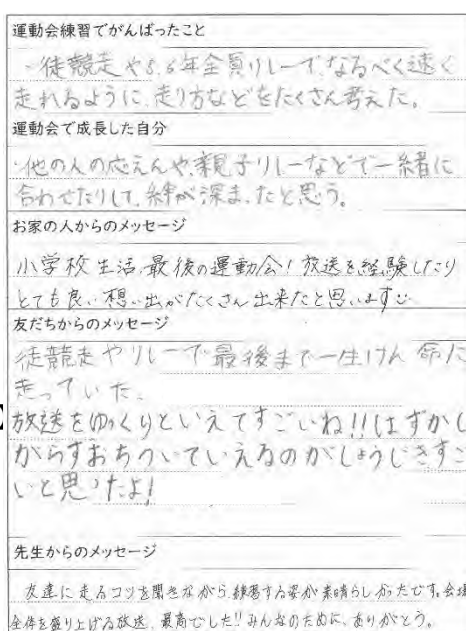
【写真37 個人目標】



【写真38 招待状】



【写真39 応援カード】

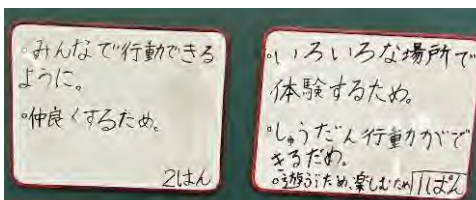


【写真40 友達と振り返り】

【写真41 振り返りカード】

(オ) 子どもが主体となる修学旅行

修学旅行の事前学習では、なぜ修学旅行をするのかということについて考えた。グループで意見を出し合い、考えたことをホワイトボードにまとめた(写真42)。その



【写真42 グループの考え】

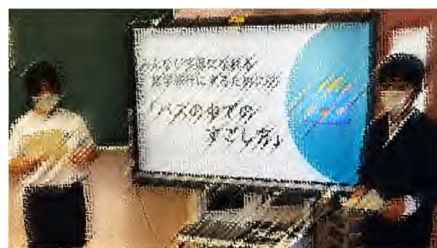


【写真43 考えをつなぐ】

後、どのグループの意見も大切であることを確認した上で、それぞれの考えを教師がつなぎながら、修学旅行の意義や目的について意識を高めることができた(写真43)。

また、本校の修学旅行は5・6年生合同で実施している。修学旅行事前学習説明会のとき

に、修学旅行中の過ごし方について、5年生の子どもたちに対して6年生の子どもたちが説明する場を設定した。子どもたちが立てた「みんなが笑顔になれる修学旅行」という目標を柱に、あいさつと話の聞き方、バスの中での過ごし方等、ペアごとに大切なことを考え、発表をすることができた(写真44)。修学旅行当日も、子どもたち自身が決めたことを意識しながら、落ち着いて楽しく過ごせた。



【写真44 事前学習での発表】

(カ) 学びを通して仲間・保護者・担任がつながる

1学期の人権学習では、6年生のよさを認め合う褒め合う活動を行った。子どもたちの「グループで活動したい」という思いを尊重し、グループに分かれてカードによさを書き、みんなで笑顔で伝え合うことができた(写真45)。



【写真45 学級のよさを褒め合う】

2学期も6年生のよさを認め合う時間を設定した。そのときに、子どもたちから「全員のよいところを書ける。」という嬉しい発言があった。実際に、全員が一人一人のよさを書くことができ、子どもたちの成長した姿に感心させられた。この大事な学びを仲間と担任だけで終わるのではなく、道徳授業参観に生かすことにした。

道徳授業参観の終末で、保護者の方から6年生になって学級が成長したことを伝えてもらい、保護者の思いを大切にしながら担任も子どもたちの成長を褒めた(写真46)。その後、子どもたちに一人一人のよさが書かれたカードを渡し、自分のよさを友達や保護者、担任と一緒に喜んだり認めたりすることができた(写真48・49)。さらに、保護者の方が自分の子どもだけでなく、他の子どもにも寄り添い一緒によさを認めてくださったことが、ありがたかった。この学習を通して、子どもたちは多くの人に大切にされていることを実感できたようだった。

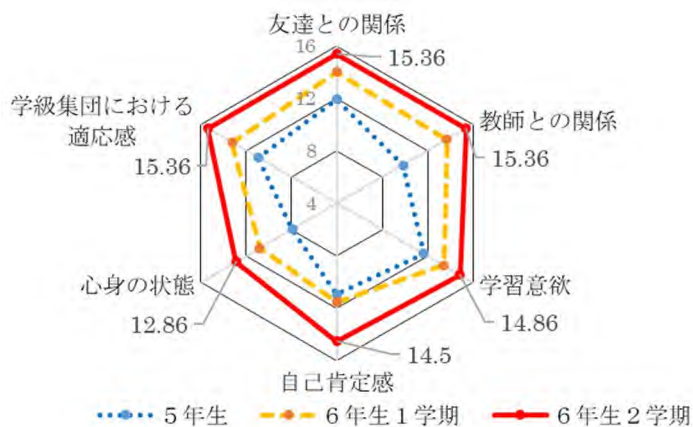


【写真46 保護者からの言葉】 【写真47 よさカード】 【写真48・49 仲間・保護者・担任と一緒に喜ぶ】

7 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

学校楽しいーと・ソーシャルスキルシート・魅力ある学校づくりアンケートの結果を用いて、子どもたちの変容を分析した。学校楽しいーとにおいては、全6観点において大幅に数値が伸び、平均で4.2ポイント上昇した(グラフ1)。また、今年度初めて実施したソーシャルスキルシートにおいても、主張スキル・配慮スキルともに大き



【グラフ1 学校楽しいーと変容】

な成長が見られた(グラフ2)。2つの結果から、子どもたちの学校への適応感は向上していることが分かった。



	見積り値 (%)	どちらかといえば		どちらかといえば	
		当てはまる	当てはまる	当てはまらない	当てはまらない
ア 学校が楽しい	100	100	0	0	0
イ みんなで何かをするのは楽しい	100	93	7	0	0
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	100	100	0	0	0
エ 授業がよくわかる	100	93	7	0	0

【グラフ2 ソーシャルスキル】

【表2 魅力ある学校づくり】

また、学期末に実施した魅力ある学校づくりのアンケートにおいては、「学校が楽しい」、「授業に主体的に取り組んでいる」では、全員が「当てはまる」と回答していた。2項目で強肯定評価が100%という結果から、子どもたちにとって、本校が楽しく通える魅力ある学校に変化していると捉えた。

回答の選択肢	4 : 当てはまる	3 : やや当てはまる	2 : やや当てはまらない	1 : 当てはまらない
①子どものよさを認め大切にしている。	78.5%	21.5%	0%	0%
②子どもの学力を高めるために努力している。	71.4%	28.6%	0%	0%
③子どものことを理解している。	85.7%	14.3%	0%	0%
④子どもの能力や努力を適切に評価している。	85.7%	14.3%	0%	0%
⑤保護者は授業参観やPTA等に積極的に参加しようとしている。	78.5%	28.6%	0%	0%

【表3 保護者用学校評価アンケート(必要項目5問のみ抽出)】

さらに、保護者用学校評価アンケートの質問①～④の結果において、学級や学校で取り組んでいる教育活動への理解が高まっていることが分かった。また、質問⑤の結果から、保護者の方が子どもたちが楽しく通える魅力ある学校づくりを温かく支えてくださっていることを再認識した。同時に、子どもたち一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える上で、保護者と学校がよりよい連携を図ることの重要性を改めて感じた。

本研究を通して、「生徒指導の4つの視点を意識した学習者中心の授業によって、全ての子どもが主体的・意欲的に取り組める、全ての子どもにとって分かる授業を実現できる」、「学校生活において発達支持的生徒指導を充実させることによって、子どもが学校とのつながりを感じ、学校が子どもにとって魅力ある学校になる」は、予想以上によい成果を得ることができた。

(2) 今後の課題

今年度は生徒指導主任として、学校全体で発達支持的生徒指導を充実させること、担任をしている6年生の子どもたちにとってよりよい発達支持的生徒指導に焦点を当てて研究に取り組んだ。小学校においては、1学年ずつの発達段階の差が非常に大きい。今後は、それぞれの学年の発達段階に応じた生徒指導の充実に取り組み、子どもたちが楽しく通える魅力ある学校に迫りたい。

8 おわりに

生徒指導主任として、生徒指導提要の改訂をふまえた生徒指導の充実に取り組んだ。学級においては、6年生の子どもたちが一つ一つのことに一生懸命に取り組む大きく成長したこと、学級の全員が教室で笑顔で過ごせるようになったことがとても嬉しかった。仲間と担任のことを信じ、子ども主体で学級や学校生活をよりよくしようとした子どもたちには、感謝の気持ちでいっぱいである。

また、新たな取組に対して先が見えない時期もあったが、発達支持的生徒指導を学校全体で大切にすることができたのは、全職員の理解と協力があつたおかげである。今後も、多くの方の協力を得られることに感謝をし、子どもたち一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長を図りたい。